

して、誤った自由や行き過ぎた権利意識、そういうものによる責任転嫁があつて、それを認め、許しすぎてきた社会の風潮も一因としてあるのではないかと思ひます。社会全体で意識を新たにしていれば、これを是正していかなければならないと考えています。

●地域振興について

Q 今まで松尾地区の活性化を図るため、どのような施策を講じたのか、また、今後どのような方向で取り組むのか伺います。

A 総務部長 平成21年度に松尾庁舎跡地利用に伴う地域活性化基礎調査業務を実施し、その結果をもとに、松尾地区の地域審議会の皆様方を中心として、いろいろなご意見を伺つてまいりました。平成23年度は、松尾庁舎等跡地周辺整備基本設計業務として、具体的にどのようなものを展開していくかという基本的な計画、設計をまとめていきたいと考えています。

Q 松尾地区の活性化において、経済環境

部のわがまち活性化課の位置づけと役割を伺います。

A 経済環境部長 農商工の連携による産業の振興と観光施策を、横断的かつ一体的に推進していくことで、わがまち活性化課を設けました。新規事業室では、新規事業を企画・立案から実行するまでを使命としています。

松尾地区は農業、商業、工業がバランスよく調和し、古墳群や神楽など伝統文化を継承し、自然が豊かな所です。また、成田国際空港から30分、高速道のインターチェンジが整備されているとともに、公共施設や社会生活基盤も充実しているものと理解しています。松尾地区の活性化には農業、商工業を活かすというところが、非常に重要であると認識し、その中で、わがまち活性化課として、松尾コミュニティの復活と活性化に向けて、しっかりとサポートしていきたいと思つています。

Q 松尾庁舎車庫棟について、市民の皆さんがなんとか利活用をし

たいとの要望があります。検討していただけますか。

A 総務部長 解体・撤去する施設に車庫棟も含まれています。それまでの期間の利用ということになります。今出たお話は本当に大切にしながら、今後のにぎわい創出の原点になるようなことであれば、ぜひ、一緒に相談をさせていただきます。と思っています。

個人質問



越川 哲 議員

●放射線による市内農産物への影響について

Q 今、私たちは原子力災害という大災害に直面しています。福島第一原子力発電所では放射性物質の放出が止まらず、農産物への影響は広範囲の地域に及んでいます。千葉県内の農産物にも放射線による被害がでて

いますが、山武市内の農産物については放射線量が測定されているのか。また、市内農産物への放射線による被害状況はどうか。

A 市長 農産物の放射線量の測定は、山武市が独自で検査をおこなっていません。

しかしながら千葉県が県内を4ブロックに分け、県内全域をカバーできる体制で定期的に検査をおこなっています。

市内農産物への放射線による被害状況ですが、現在、出荷制限を受けているものは、生茶葉のみです。

Q 農産物から基準値を超えた放射線量が検出された場合は、国と東京電力が責任を持って損害の補償をしていくべきだと思ひます。今、一番危険されていることは、市場における風評被害です。実際に市内産のレタスなど売上が大幅に減少したと聞いています。風評被害への特效薬は

ありませんが、放射線量を正確に測定し、誠意を持って発信していかねばなりません。今後どのように、市内農産物の放射線量を測定し、それを発信していくのか。

A 経済環境部長 農産物の安全性の確認については、今後も千葉県によって計画的におこなわれるモニタリング検査結果を、活用させていただきたいと考えております。検査結果につきましては、市ホームページに掲載させていただきます。

現在、大気中の放射性物質の濃度も低レベルで安定していますので、山武市の野菜は安心安全と断言できる状況です。

福島原発事故の収束が見えない中、原発の最新情報に注意を払いながら、県の調査の結果、大気中の放射性物質の変移等に注意してまいりたいと考えております。

Q 城西国際大学は、来年の看護学部開設に向け、文部科学省に設

置認可申請をおこないました。医療の過疎地域である山武地域にとって、明るいニュースであり、期待もできます。さんむ医療センターにおいても、この地域の医療の核となることが期待され、地方独立行政法人としてスタートして1年が過ぎました。さんむ医療センターの平成22年度の収支状況はどうか。

A 市長 平成22年度の収支につきましては、9千181万5千770円の当期純利益でございます。

Q この数字に関して、市長の見解はどうか。

A 市長 黒字になったという、一応の安心感がございます。しかしながら、これからのことを考えますと、もう一頑張りも二頑張りもしてもらいたいと思つています。

Q 病院の運営は多様な職種に支えられており、医師、看護師のほかにも多くの職員が勤務しています。このような状況下、さんむ医療センターでは職員の資質向上に向け、どのような取

りかかっていますか。